

UNESCO－IICBA主催 平和教育経験共有会への伊藤大使出席

8月16日（月）、伊藤大使は、ユネスコ・アフリカ地域能力開発国際研究所（UNESCO－IICBA）の主催したオンライン経験共有会「アフリカにおける教育と若者のエンパワメントを通じた、平和、レジリエンス構築、過激主義の防止のための変革的教育法」に参加しました。

このウェビナーは日本政府の令和2年度補正予算事業として採択された、UNESCO－IICBAの「TICAD（アフリカ開発会議）7とNAPSA（アフリカの平和と安定に向けた新たなアプローチ）の精神に一致する新型コロナウイルス感染下におけるアフリカでの教育を通じた過激主義の発生及び再発予防支援」の一環として行われたものです。

伊藤大使は、冒頭挨拶において、日本政府のこれまでのUNESCO－IICBAへの支援やTICADを通じたアフリカ開発への貢献に言及しながら、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念の実現のためには、持続可能で多様性を受け入れる社会づくりが必要であり、そのためには世代を超えた対話が重要であると述べました。

当日は、アフリカ18か国の約90名の若者や平和構築の専門家により、各国での平和構築教育の好事例を共有しながら活発な意見交換が行われました。



集合写真